



〒 915-0823  
 福井県武生市本町 10-2  
**大 寶 寺**  
 TEL/FAX (0778)22-1682



お盆を迎えるにあたって

「地獄の釜の蓋が開く」と昔の人はお盆を表現しました。極楽から地獄へ戻るといふ、あの世から先祖が戻ってくる、お盆を「おしょうらいさん」と呼び、ご先祖さまに心からお仕えする、日本の古くからの習わしとして続けられてきました。

当山の十日のお墓参りには、子も孫も嫁さん夫婦も親戚もともにお詣りし、墓を洗い花を供え、水塔婆を手向けます。「皆さんお元氣ですか」、「ごぶさたしていません」、「お子さん大きくなりましたね」などと、本堂では日ごろのお礼や、近況を伝えることが往々あります。墓参りにはお施餓鬼が行われます。これはお釈迦さまが目蓮尊者に餓鬼道に墜ちて苦しんでいる母の救いを説かれた教えに

由来します。先祖代々や年回に当たる先亡の霊、忘れ得ぬ人の霊を供養し、その功德によつて餓鬼道におちいったすべての人々の供養をする、これが盆施餓鬼法要のこころです。

最近、家族間の暴力沙汰や殺人事件が引き次いで起こつていきます。まことに憂うべき世情と言わざるを得ません。ご先祖のおかげで今、命があることを有り難く思う。そこから感謝と喜びの心が育つて来ます。

十二日からお仏壇での棚経にお参りします。今年には住職が体調を崩しておりますので副住職とその長男が代わつてお伺いいたしますが、どうぞよろしくお願いたします。

平成十七年

墓参り御案内

八月十日(水)

お施餓鬼法要 本堂にて

午前九時半頃から

昼食 庫裏にて

正午 一時頃まで

お施餓鬼法要 本堂にて

午後一時

山門(北側の門)横の回向院にて水塔婆の供養を受け付けてあります。

旧盆棚経予定

八月十二日

具谷、湯尾

八月十三日

燧、南条、武生周辺地区

鯖江、森行、浅水

八月十四日

栗田部、中居、五分市、北村、国高、村国、八幡

八月十五日

五郎丸、上鯖江

八月十六日

檉津



水塔婆は回向院にてお求めいただけます。

お施餓鬼のお申込みについて

8月10日本堂にてお施餓鬼のご供養を致します。お申込みは当日、本堂の帳場にて受け付けておりますが、できればあらかじめ寺までお申し込みいただくようお願い致します。なお、当日はお菓子などのお供物をお供えいただきますようお願い致します。

また、回向院にて水塔婆をお求めいただけます。

お施餓鬼養冥加料 一霊 20,000円 水塔婆 300円

武生市公会堂の向かいの旧NTT支店のシ  
 ヨーウィンドウには市内の禅寺の山主が独特  
 の字体で仏教の教えを説いた墨書が掲示され  
 る。六月のことばは「塵も仏」。塵は取るに  
 足らない、煩悩の陰りがありはしないか、とい  
 う判断に、煩惱の陰りがありはしないか、とい  
 う警句であろうか。

検事総長まで務めた伊藤栄樹という人物が  
 「人は死ぬばゴミになる」という本を出し物  
 議をかもしたことがある。衝撃的であるため  
 に題名だけが一人歩きしているようにも思わ  
 れるが、中身は癌に冒され六十四才で逝つた  
 著者の克明な闘病記である。

「死んでも、残された私たちを見守って」  
 との妻は懇願するが、「(ぼくは)死んだ瞬間、  
 ただの物質、つまりホコリ、あるいはゴミみ  
 たいなもの」と化し意識のようなものは残らな  
 い(と思)うから、死んでしまつたらおまえを  
 守ることとはできない」と伊藤氏は答えている。  
 伊藤氏が人の死をゴミとして描写しているの  
 は唯一この部分だけなのだが、決して彼の冷  
 酷さから出たことばだとは思わない。「冷静、  
 客観的に証拠を追いつめ、科学的、合理的に  
 思考」することを求められる検察官という職  
 業からのせいだと彼は言うが、その通りであ  
 る。

ところで二回目に例のショーウィンドウの  
 横を通つたとき、ちよつと衝撃的な体験をし  
 た。ハンドルを握りながら「塵も仏」という  
 ことばをちらりと横目に見て、正面に向き直  
 ったとき「塵」という文字が目の中に飛び込  
 んできたのである。何のことはない、いわゆ  
 るゴミ収集車が前を走っており、その車体の  
 後面に、塵芥運搬専用車と書かれていたので  
 ある。

ところで、この体験はあることを気づかせ  
 てくれた。それは「人は死ぬばゴミになる」  
 ということばに目くじらたてた必要はない  
 であるならば、人が死んでゴミになつても、  
 そのままで仏ということになる。

伊藤氏がミスター検察と呼ばれ、「造船疑  
 獄」「日航機ハイジャック事件」「ロッキード  
 事件」など戦後の数々の重大事件に関わり優  
 れた業績を残したことに疑いの余地はない。  
 しかし、彼が仏教に接してからは、妻を始め  
 愛する家族たちには違つたことばを残してい  
 たであろう。まして「人は死ぬばゴミになる」  
 という本を後世に残すことはなかつただろう  
 と思わずにはいられない。

### 五重相伝が迫ってまいりました

昨春秋不慮の病に倒れて以来、再起を機して養生に努めました。今年の六月再び心筋梗塞に襲われ回復が遅れてしまいました。まだ、日数があると思っていました。五重相伝まであと二ヶ月に迫ってしまいました。

すでにすべてのお檀家にご案内と申込書をお届けしてございますが、どうしようかと決めかねている方もおられると思いますが、またとないご縁です。どうぞ思い切ってお申し込み下さい。

当山大寶寺では五重相伝は十年ごとに開催されますところの重要な行事です。浄土宗の檀信徒は、少なくとも一生に一度は五重相伝を受けて法然上人の「お念仏によつて救われる」ということはどうということかの真の意味を五日間の勧誡師の法話を聞く事を通じて体得して頂くのが第一の主旨です。

第二にはその間に仏の弟子になるお剃度や今日までの自身の生き方を反省する懺悔道場、これからの毎日の生活のあり方を仏さまにお約束する要偈・密室などの作法を授かることです。

そして、その証しとして、また五重を受けた名誉として生前戒名が授けられます。

また、五重に会えなかった先亡の霊に五重についたと同様の功德を贈るといふ贈り五重(戒名に譽号が贈られます)と、亡くなった人や先祖の回向が五重中に毎日行われます。更には、五重に二度、三度お受けになる信仰心の篤い方もおられます(再伝)。その方々は前の五重での戒名にそれにおさらわしい文字が加わります。

いずれにしても不審のことがあります。寺におたずね下さい。いろいろと準備の都合がございますので、お申し込みは出来るだけ早めにお願ひします。

住職

### トピックス

#### 永代施餓鬼法要

6月25日から26日

住職が知恩院に出仕していた折りにお世話になった伊勢の村上真孝上人のご法話を頂き、二日間に渡って永代経の法要を営みました。今年も二日目の午後伊勢の太神樂の奉納がありました。



炎天下、太神樂の一行の熱演に参詣のお檀家のみなさんは楽しい時間を過ごしました。懐かしいお囃子の音を聞きつけ近所の方もお見えになり神樂の奉納を楽しみました。来年も永代経ではお神樂の奉納をして頂く予定です。



#### 法然上人ご分身ご巡錫および福井県浄土宗檀信徒研修会

7月3・4日(日/月)

武生市京町の正覚寺に知恩院大殿におまつりしてある法然上人を模したご分身がご巡錫になりました。県内各地から広い本堂を埋め尽くす数の浄土宗の檀信徒



の方々をご参詣になり大変盛会となりました。ご分身をお迎えし法要を勤めたあと、会場を山代温泉「ゆのくに天祥」に移して懇親会を持ち、二日目は有本 啓上人のご法話、児童教化連盟によるパネルシアターなどの内容で檀信徒研修会が行われました。大寶寺からは役員さんなど五名の参加がありました。

#### 新盆・棚経

7月13日から15日

武生・鯖江・福井の市街地区は七月にご先祖をお迎えします。特に旧武生市内では13日には寺のお墓参りをします。14日には寺から棚経に廻りますが、各家のお仏壇にはお野菜などとともに蓮の花を形取った灯籠をつるします。15日にはその灯籠を日野川に流したり、お焚き上げをしてご先祖の御霊を送ります。

この蓮の花の灯籠は数年前に灯籠を作る職人さんが亡くなったため一時は数が減りましたが、シルバー人材センターや有志の八百屋さんのおかげでお仏壇に灯籠を飾る家が増えてきました。

今年は15日の夕方に激しい雨が降ったので、灯籠を流すにしてもお焚き上げをするにしても大変でしたが、ご先祖が伝えてくださった風情ある伝統行事は守り続けたい物です。



13日旧武生市内のお檀家さんのお墓には色とりどりの灯籠が飾られます。